

テーマ：神の御子イエス・キリストがどれほど“遜られた”のかを自分のこととして考える

※ヨハネ 8:58

「まことに、まことに、あなたがたに告げます。アブラハムが生まれる前から、わたしはいるのです。」

○遜られた王：“どんなに低い所”へ下られたのか？(7)

▷「ご自分を無にして、仕える者の姿をとり、人間と同じようになられました。」

「ご自分を空しくして、しもべの姿をとり、人間と同じようになられました。」(新改訳 2017 版)

▷「無にする/空しくする」：ギリシャ語“ケノー”

※ヨハネ 10:30

「わたしと父とは一つです。」

※ヨハネ 10:33

「ユダヤ人たちはイエスに答えた。「良いわざのためにあなたを石打ちにするではありません。冒瀆のためです。あなたは人間でありながら、自分を神とするからです。」

※ヨハネ 14:9-10

「ピリポ。こんなに長い間あなたがたといっしょにいるのに、あなたはわたしを知らなかったのですか。わたしを見た者は、父を見たのです。どうしてあなたは、『私たちに父を見せてください』と言うのですか。わたしが父におり、父がわたしにおられることを、あなたは信じないのですか。わたしがあなたがたに言うことばは、わたしが自分から話しているではありません。わたしのうちにおられる父が、ご自分のわざをしておられるのです。」

※ヨハネ 20:28

「トマスは答えてイエスに言った。「私の主。私の神。」」

「神の御子が人となって遜られたとき、それによってこの方が神の性質と特権を失い、神の御姿を人の姿に変えてしまったと考えることがあります。ご自身の神としての性質を空っぽにすることによって、失うこと、引き算によって貧しくなられたと言うのです。しかし、聖書はそのような考えを支持してはいません。この方は受肉した状態にあっても、その内に神の満ち満ちたご性質が宿っていました(コロサイ 2:9)。人の子が貧しくなられたのは、神であることやそれから切り離せない御性質、特権を手放したからではありません。この方は以前の自分でなくなることによってではなく、以前の自分ではないものになることによって貧しくなられたのです。引き算ではなく、足し算によってなのです。」(ジョン・マレー)

1) キリストは_____となられた(7a)

「奴隷は最も低い地位にあり、無力で、何の権利も持っていません。栄光もなければ、名誉もなく、あるのはただ恥だけです。」(ウォルター・ハンセン)

※マルコ 10:45

「人の子が来たのも、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、贖いの代価として、自分のいのちを与えるためなのです。」

※ヨハネ 6:38

「わたしが天から下って来たのは、自分のところを行うためではなく、わたしを遣わした方のみところを行うためです。」

※ヨハネ 5:30

「わたしは、自分からは何事も行うことができません。ただ聞くとおりにさばくのです。そして、わたしのさばきは正しいのです。わたし自身の望むことを求めず、わたしを遣わした方のみところを求めるからです。」

※マルコ 14:36

「アバ、父よ。あなたにおできにならないことはありません。どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。しかし、わたしの願うことではなく、あなたのみところのままを、なさってください。」

※ピリピ 1:1

「キリスト・イエスのしもべであるパウロとテモテから、ピリピにいるキリスト・イエスにあるすべての聖徒たち、また監督と執事たちへ。」

※ローマ 6:22

「しかし今は、罪から解放されて神の奴隷となり、聖潔に至る実を得たのです。その行き着く所は永遠のいのちです。」

2) キリストは_____となられた(7b)

「人間の父親を持たず、女から生まれたイエスは、他の子どもと同じように、愛する両親の思いやりや世話を必要としました。そして程度の差こそあれ、他の子どもたちと同じように成長し、知恵が進んで、背丈も大きくなり、神と人々に愛されるようになったのです。飢えと渇きを覚え、痛みに苦しみ、悲しみを味わうこともありました。他の人と同じように、疲れて弱さを覚え、睡眠を必要とされることもありました。また、ご自分は罪を全く犯されませんでした。それでもすべての点で、私たちと同じように、試みに会われたのです。」(ジョン・マッカーサー)

※ヘブル 2:14-15, 17

「そこで、子たちはみな血と肉とを持っているので、主もまた同じように、これらのものをお持ちになりました。これは、その死によって、悪魔という、死の力を持つ者を滅ぼし、一生涯死の恐怖につながれて奴隷となっていた人々を解放してくださるためでした。…そういうわけで、神のことについて、あわれみ深い、忠実な大祭司となるため、主はすべての点で兄弟たちと同じようにならなければなりません。それは民の罪のために、なだめがなされるためなのです。」